

## 「洗礼を受けられるイエス」(イエスキリストの生涯②)

マタイの福音書 3章 13~17 節



イエスキリストの公的な生涯は、バプテスマのヨハネから洗礼を受けられることから始まりました。

しかし考えてみると、洗礼とは罪ある人間が受けるべきもの、つまり神から離れて生きていた私たちが神に立ち返って生きることを表すしるしとして受けるものです。とするならば、イエスご自身には必要のないものでした。しかしそこに、救い主であるイエスキリストの姿が表されています。

### ① 罪のないイエスキリストが洗礼を受けられた

“そのころバプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教えを宣べ伝えて、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言った。…” 3:1-2

“そのころ、イエスはガリラヤからヨルダン川のヨハネのもとに来られた。彼からバプテスマを受けるためであった。しかし、ヨハネはそうさせまいとして言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受ける必要があるのに、あなたが私のところにおいでになったのですか。」” 13-14

### ② 人としてなし得る正しさを満たされた

“しかし、イエスは答えられた。「今はそうさせてほしい。このようにして正しいことをすべて実現することが、わたしたちにはふさわしいのです。」そこでヨハネは言われたとおりにした。”

15

### ③ 神でありながら罪人の立場に立たれた

“神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあって神の義となるためです。” 2コリント 5:21

“イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」” 16-17

### ○話し合ってみましょう

- ・バプテスマのヨハネは「悔い改めにふさわしい実を結びなさい」と人々に迫りました。イエスキリストを救い主と信じた私たちは、具体的にどのように生き方を変えました。
- ・洗礼は「受けなければならない」ことなのでしょう。受けなくてもよいイエスキリストが洗礼を受けられた姿を思いながら、私たちが洗礼を受ける動機について考えてみましょう。